

## 中酪情報 No.557

2015年5月31日発行  
毎号奇数月末発行

発行：一般社団法人 中央酪農会議  
編集・発行人：内橋政敏  
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295

### ご意見・ご感想をお寄せください。

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

### 宛先及びお問合せ先

---

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1  
一般社団法人 中央酪農会議「中酪情報」編集部  
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295  
<http://www.dairy.co.jp/>  
(中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます)

### 編 集 後 記

---

農林水産省が5月下旬に発表した「食料安全保障課海外食料需給レポート～国際的な穀物等の需給の見通し(2015/16年度)～」によると、世界の穀物全体の生産量は、前年度より減少し、消費量を下回り、期末在庫率は低下する見込みです。

品目別の需給見通しをみると、とうもろこしの生産量は、中国、アルゼンチンで増加するものの、米国、EU、ブラジル等で減少することから、世界全体では前年度より減少する見込みです。生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度に比べて0.3ポイント低下します。主要輸出国である米国の生産量は、収穫面積の減少及び単収の低下から、前年度を下回り、期末在庫率も低下。ブラジルの生産量は、とうもろこしから収益性の高い大豆に転換されることから収穫面積が減少し、前年度を下回ります。飼料用穀物をめぐる国際需給は、予断を許さない状況がしばらく続きそうです。

このような状況の中、本年3月に公表された「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」では、収益性向上のための取組として、国産飼料の活用による生産費の低減が指摘されています。飼料基盤の確立は、酪農経営を将来世代が安心して継承するために、生産者と関係者が一丸となって取り組まなければならない喫緊の課題だと思えます。